

一般社団法人ロボカップジュニア・ジャパン
2021年度第1回理事会議事録

1. 日 時 : 2021年1月10日(日) 11:15~12:40

2. 場 所 : 大阪市北区豊崎3-20-1 インターグループビル会議室 ZoomにてWeb会議

3. 出席者

(1) 本人出席者 9名

大橋健、水野勝教、今井俊二、中島晃芳、島谷太、森重智年、小山航太、
松山森仁、田中宏明(監事)

(2) 委任状提出者 2名

松原仁、野村泰朗

(3) 理事以外出席者 3名

前田正久(事務局長)、浅沼まり(事務局)、休場万喜(事務局)

4. 議 事

1. 2021名古屋大会について
2. その他
3. 議事録署名人の選定

5. 資 料

- 資料1 運営スタッフ旅費定額支給規程(案)、便宜供与、同意書
資料2 名古屋レスキュー運営についてA、B

6. 議事概要

(1) 議長の選出

①大橋代表理事が議長に選出され開会を宣言し、本総会は、定款第18条の規定を満足しており、成立していることを報告した。

(2) 2021名古屋大会について

①大橋代表理事より、1都3県での緊急事態宣言の発令と大阪、京都、兵庫での緊急事態宣言の要請を受け、名古屋大会のオンライン開催の可能性について、議論を求めた。

・大橋代表理事より、昨年メジャーのジャパンオープンは、オンラインで実施可能な競技を中心に実機とフィールドを各チームで準備して頂き、ライブ配信も実施した。ジュニアは、メジャーのように各チームがフィールドを持っていないので、ノードやブロックの協力が必要であるが、メジャーを参考にして、オフラインでの開催が中止となってもオンラインでの開催を検討してはどうかとの意見がなされた。

・中島理事より、緊急事態宣言を受け、ブロック大会を中止したブロックもあり、ブロックからの推薦が難しいのではとの意見がなされた。これに対し、水野専務理事より、ブロック大会についてのアンケート項目にある、ノード大会のエントリー数を基に配分数を決定してはどうかとの意見がなされた。森重理事より、同時にジャパンオープンへの参加意思を入力してもらってはどうかとの意見がなされた。

水野専務理事より、オフラインで実施された場合、他府県への移動を制限する学校もあるため、ジャパンオープンへの参加意思は、開催方法の決定後に確認する方がいいのではとの意見がなされ、まずは1月末までにノード大会のエントリー数を見込みでも構わないので入力してもらうことを中島理事から案内することとなった。

・水野専務理事より、オンラインでの開催が現段階において、どの程度可能か意見を求めた。OnStageはオンラインでの実施が可能であるが、ライブ配信する場合、音楽は著作権の問題があるため、著作権フリーか自作の音楽を準備する必要があり、参加者へ周知する必要があるとの意見がなされた。審査方法としては、インタビューはリアルタイムで行い、パフォーマンスはビデオ録画したものを審査してはどうかとの意見がなされた。これに対し中島理事より、関東ではビデオではなくリアルタイムでパフォーマンスを審査しており、ビデオでは成功するまで繰り返しチャレンジすることが可能であり、パフォーマンスの再現性を評価するうえで問題があるのではないかと、事前準備が必要であるが、関東ブロックでのノウハウを生かせればジャパンオープンでも可能ではないかととの意見がなされた。小山理事より、個人で参加している場合オンライン環境の不備を考慮すると、録

画する方がいいのではないかと意見がなされた。

・サッカーについて、松山理事より、個人ではフィールドを持っていないチームもあるため、リアルタイムに審査する場合は、各ブロックにコートやインフラを提供してもらうことは可能かと質問がなされた。これに対し水野専務理事より、東海ではフィールドとオンラインの環境を同時に準備するのは難しい。大学のオンライン授業でも100名近くが参加すると通信が不安定になるとの意見がなされた。このような点からサッカーは、ビデオ審査とリアルタイムでのインタビューで判断する方が現実的ではないかと意見がなされた。

・水野専務理事より、レスキューについて、海外で使用されているシミュレーターを国内で運用することが可能かとの問いに対し、森重理事より、レスキューMazeで実績はあるがLineではなく、サポート体制もないためジャパンオープンには間に合わないが、アジアパシフィックでは検討の余地があるのではないかと意見がなされた。

・森重理事より、オンラインになった場合、レスキューではプレゼン、ビデオ、インタビューに基づく審査を検討しているが、公平性が担保できるかとの意見が技術委員内であるとのことだった。

・水野専務理事より、オンラインで開催する場合の参加費用について意見を求めた。大橋代表理事より、オンラインになった場合、名古屋市へ支払う分担金が交渉できるのであれば、例年の参加費より減額することも可能ではないかと意見がなされた。

また、前田事務局長より、3月末までにオンラインの準備が間に合わないのであれば、開催時期をずらしてRCJJによる単独開催を検討してはどうかとの意見がなされた。森重理事より、世界大会への選抜を目的とした選考大会であれば、RCJJ単独で開催することも可能であり、配信をしないという選択肢もあるとの意見がなされた。

・前田事務局長より、OnStageの審査をリアルタイムではなくビデオにした方が費用を削減できるのではないかと意見がなされた。これに対し中島理事は、リアルタイムでも費用はかからない、技術委員の中にはビデオ審査には反対の意見もあるとのことだった。

・島谷理事より、参加チームの多くはサッカーなので、サッカー参加の有無は大きいとの意見がなされた。これに対し松山理事より、サッカーは約150チームあり全チームのインタビューを見るだけでも相当な時間と労力がかかり、技術委員やスタッフへの負担はとて大きいとの意見がなされた。また、ビデオ審査の課題として、ゴールに背を向けてからフリーキックをする等のロボットの性能を測ることはでき、コートがないチームでも参加は可能との意見がなされた。

・水野専務理事より、各リーグの技術委員に3月末のオンライン開催が可能かどうか、またオンライン審査の実施方法を1月末までに検討していただく旨確認がなされた。

・中島理事より、オンラインが世界大会への選抜を目的とした選考大会になった場合、日本リーグへの救済措置はどうかとの意見がなされた。

・大橋代表理事より、参加賞やノベルティグッズを準備してはどうかとの意見がなされた。

・森重理事より、レスキューもOnStageのように特別賞を新たに設ける必要があるのではとの意見がなされた。

(3) その他

①理事改選の手順について、水野専務理事より、候補者が10名以上となった場合は、現理事と候補者全員で相互投票を行い得票数の多い順に確定とし、票数が同じで10名を超える場合は、残った候補者で再度投票する旨説明がなされた。

②島谷理事より、レスキューシミュレーションは西日本大会のみ開催し、ジャパンオープンへの推薦を実施することで問題ないかどうかの確認がなされた。1月末までにエントリーがなければ、西日本大会のみ開催することで承認がなされた。

③次回理事会は、次の名古屋大会実行委員会の日程と同日に行う。また別途、決算承認のための理事会は、2月21日(日)10時から開催することとなった。

(4) 議事録署名人の選任

本日の議事録署名人として、水野勝教氏、及び島谷太氏にお願いすることとなった。

以上、この議事録が正確であることを証します。

2021年1月10日

議長 大橋 健
議事録署名人 水野 勝教
同 島谷 太

